大崎短歌会

兼題『自由』

右の海左の海も色青く　実吉安仁
浮かぶ枇榔島昔へのまま

台風もなく順調に育ちし早期米　坂元つる子
垂れる稲穂に豊作を知る

ギラギラと夏の太陽降り注ぎ　井元かず子
鮮やかに咲く向日葵の花

いつ果つる戦とも知れず葉を垂れて　山下海征
自責負うごとひまわりは立つ

もがり笛消へて幾夜か夏の月　上南紀子
仰ぎて偲ぶ闘病二十年

やすやすとトラックに乗る老牛の　本後淑子
売られ行く夜にねむの花散る

早期稲順調に育ち黄金色　穂園芳江
有難きかな天地の恵

照りつける陽を背に反し白熱の　馬場みさ
高校球児汗まみれ駆く

薩摩郷句

兼題『湯治』

湯の疲れか　鼾が並るだ　湯治の宿
（唱）んだんだ全部　疲れやったとじゃろ　北村虎王

長が振いの　湯治で逆上せっ　救急車
（唱）喜くだ即き　長々浸かっ　遠矢酎多

湯治の宿　膝が腰がち　弾んじょっ
（唱）慰め合たや　治ったごちゃっ　西ノ園ひらり

年一度　湯治で若こない　老人骨
（唱）骨を安めっ　気分も若こし　上村牛歩

長生きな　湯治が一番じゃち　老夫婦
（唱）鼻歌交じいで　楽しか態うじゃ　上窪小絵

湯治の後て　本当ち美味まか　生ジョッキ
（唱）こいが至福ち　言うもんじゃんそ　二見愚楽満

湯治の宿　下駄が似合ちょい　散歩道
（唱）カランコロンち　涼るしゅ散歩　藤元鬼瓦

味噌・醤油も　連のっ指宿き　湯治じ行楽っ
（唱）食慣れた味で　嬉しか湯治じゃ　諸木小春

湯治の宿　三度も浸かっ　疲れ倒けっ
（唱）嬉し任せい　考げん無こっ　満石うらら

湯治の宿で　送った母も　今は無し
（唱）ま少っと孝行　すれば良かった　長重リリー

減いコロね　湯治で旅館が　生っきゃがっ
（唱）お客様は　神様です　諸木美舟